

御墓所拜之、次誓願寺へ參了、

十三日、辰戌筒井順慶、撰錢ノ令ヲ奈良ニ頒ツ、

〔多聞院日記〕二十九 九月十六日、

一去十三日歟、奈良中無法量料足ヨル間、從筒井錢定ノ札打之、三貫直ニ可取之、ツレ、カケ、ナマリ錢ノ外ハ可取之云々、

徳川家康、書ヲ下野宇都宮城主宇都宮國綱ニ遺リ、羽柴秀吉、惟住長秀、柴田勝家等ノ來援スルヲ以テ、北條氏政ノ兵ヲ掃蕩センコト近キニアリト稱シ、氏政ト連和スル事勿ラシム、

〔宇都宮氏家藏文書〕下 常陸

急度申入候、仍路次等於自由者、細々以使者懇談啐啄之儀可申承候處、往還依無合期、無音所存之外候、然者此表之樣躰、最前如申入候、雖然上勢羽柴、惟住、柴田始、悉至當表出勢之催、敵方へも相聞候歟、一向無正躰候、近々上方人數著陣候間、彌根切案之内候、於様子者、可御心安候、兼又貴方當方入魂之儀不可有隱候間、彼倭人之氏政種々爲計策、和與之段申噯儀可有之候哉、一切不可有御許容候、小田原之者謀略不始于今儀候、尙以向後深重可申談候條、